

志田 一彦 委員

フィットネスクラブのコミュニティ化



私が代表を務める(株)舞浜コーポレーションは、(株)オリエンタルランドの子会社第1号である。1994年の設立以来、親会社の事業発展とともに多岐にわたる周辺業務を請け負ってきた。その一部に千葉県浦安市内のNSC「パークスクエア」の運営受託がある。

1975年、オリエンタルランドによる浦安沖の埋立造成工事が竣工した。街づくりが始まったばかりの1979年に開業したパークスクエアは、市民に歓迎され、長らく活況を呈した。しかし、四半世紀が経過する中で浦安市内にもGMSやSMが続々と誕生し、次第次第に商圏を狭められてきている。

2006年、さるテナントが退店した。新規事業進出の可能性を探っていた弊社は、空き区画に女性専用30分フィットネス「カーブス」を開

店し、フランチャイジー事業に乗り出した。

なぜカーブスか？ それはこの業態の本質がコミュニティ創造にあると考えたからである。カーブスの主要顧客は中高年の主婦層である。運動嫌いの彼女たちが自発的にスポーツクラブへ通うことは考えにくい。冗談めいた話だが、「もう少し痩せてからでないと、恥ずかしくてジムへ通えない」と真顔で言う方々なのである。

しかし、カーブスならば会員は女性だけ。おしゃべりを楽しみ、励まし合いながら運動できる。マシンは女性専用が開発。リハビリにも効果がある。毎月、手作りのイベントが開催され、店内には近隣店舗やサークルなどの情報が数多く掲示されている。

昨年11月には会員が家庭内で余つ

た食料品を店舗に持ち寄り、母子養護施設や教会へ寄付するボランティア活動(フードドライブ)を全国600店舗で展開し、好評を博した。296の福祉施設・団体へ届けられた食料は、総計5万トンに達したと聞く。カーブスでは、口コミで会員が増え、友好の輪を広げていく。体を鍛える場所でありながら、心を満たしてくれる場面のほうが多いのだ。

弊社は現在、京葉地区に9店舗、路面店も含めてさまざまな立地でカーブスを経営しているが、NSCとの親和性は特に高いと感じる。それは単に顧客層が重なるためというだけではなく、狭商圏内のコミュニティ重視という基本姿勢を共有しているためである。



女性専用のフィットネス「カーブス」

志田 一彦 (しだ かずひこ)

1981年、(株)オリエンタルランド入社。人事・総務畑を歩き、1996年の株式公開を担当。1999年、(株)イクスピアリへ出向。接客ロールプレイングコンテスト優勝チームを率いる。2005年、(株)舞浜コーポレーションへ出向。代表取締役社長に就任。